

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 156 2016. 2. 22

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学総合情報メディアセンターC館内
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 080-9730-1311 FAX:058-293-3384
E-mail: jsei@gifu-u.ac.jp http://jsei.jp/

＝ 日本教育情報学会 第32回年会 ＝

開催日：8月20日(土)・21日(日)
会場：学校法人福山大学宮地茂記念館
年会テーマ：21世紀に必要な人間力を考える

第32回年会は、広島県福山市の福山平成大学と福山大学の共同開催で、学校法人福山大学宮地茂記念館で開催されることになりました。両大学が教育方針として重視している全人教育の考えを踏まえ、年会のテーマを「21世紀に必要な人間力を考える」とさせていただきます。記念講演は、長年両大学で情報処理教育に力を入れて来られた福山平成大学坪井始副学長をお願い致しました。シンポジウムは、これまでの年会と少し趣を変え、教育する側と学生を受け入れる側の意見交換を行いたいと考え、地元福山と大阪の企業の方々にも参加していただきます。また、課題研究では、初日に各研究会を中心にした発表をしていただき、2日目は研究会を横断的にした発表をしていただきます。課題研究、一般研究とも発表申込がWeb申込となりますので要項をご熟読の上、期限内に手続きを行なって下さいますようお願い申し上げます。皆様のご参加とご発表を心よりお待ちしております。

第32回年会実行委員長 福井 正康

開催日：2016年8月20日(土)・21日(日)

会場：学校法人福山大学 宮地茂記念館

<所在地> 〒720-0061 広島県福山市丸之内1丁目2番40号

<URL> <http://web.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/kinenkan/kinenkan.html>

事務局：日本教育情報学会 第32回年会実行委員会

<所在地> 〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成117-1

福山平成大学 福井研究室 084-972-5001 (代表) 内線 5101・2615

<Email> jsei-nenkai@jsei.jp

年会ホームページ： <http://jsei.jp/nenkai/nenkai32/>

後援：

(予定) 学校法人福山大学 広島県教育委員会 福山市教育委員会 尾道市教育委員会
三原市教育委員会 府中市教育委員会 笠岡市教育委員会 井原市教育委員会

日程（時間は予定）

<1日目> 8月20日（土）		<2日目> 8月21日（日）	
9:30～	受付	9:30～	受付
10:00～12:00	課題研究発表	10:00～12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00～13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会	12:00～13:00	昼食・研究会
13:15～13:45	総会・学会賞表彰式	13:00～15:00	課題研究発表 一般研究発表
13:50～14:15	研究会活動報告		
14:30～15:30	記念講演	15:15～17:15	課題研究発表 一般研究発表
15:45～17:30	シンポジウム		
18:00～	懇親会		

【1】 【記念講演】

数値情報の可視化

講演者：坪井 始（福山平成大学副学長）

会場：学校法人福山大学宮地茂記念館

<8月20日（土） 14時30分～15時30分>

【概要】

最近、大量データの処理技術が注目され、様々な分野で大量データ中の潜在的な情報を抽出する解析手法が開発されている。その結果の効果的な表示法のひとつとして、コンピュータグラフィックスによる可視化があげられる。ここでは、物理現象を解析する計算工学分野において、シミュレーションで得られた大量のスカラ及びベクトルデータ評価のための、コンピュータグラフィックスを用いた可視化手法について述べる。

【2】 シンポジウム

テーマ：21 世紀に必要な人間力を考える

<登壇者>

高田 信吾（株式会社虎屋本舗・代表取締役社長）

<http://www.tora-ya.co.jp/>

織田 望（日本ニューマチック工業株式会社・代表取締役社長）

<http://www.npk.co.jp/>

森 雅生（東京工業大学・教授）

教職開発の立場から

河野 敏行（岡山理科大学・准教授）

I C T活用の立場から

小川 勤（山口大学・教授）

国際交流の立場から

コーディネータ：福井 正康（福山平成大学・教授）

【概要】

人間力とは何か、立場により様々な意見があると思う。人と理解し合える能力、社会を生き抜く生命力、仕事の中で役に立つ学力、幸福感を持って暮らせる資質など、教員であれば学生や生徒に伝えたいと願う力である。これらの中で、学校で身に付けられることは何か、またそれはどこまで可能か。学校教育の中心である学問の大切さはいかに伝えるか。主体的・協働的学習は社会での活動にどのように繋がるかなど、抽象的なことから具体的なことまで、思うままを大いに語っていただき、教育側と卒業生を受ける社会の側の意見交流の場にしたいと考える。

【3】 課題研究

① ICT 活用研究会（ICT を効果的に活用し、豊かで力強い人間力の育成）

【コーディネータ】 河野敏行（岡山理科大学）

【概要】

本研究会では、ICT を効果的に活用し、児童・教員相互に働きかけ、豊かで力強い人間力を育成していくことをテーマとする。そのために、教材開発、サポートシステム構築、プログラミング教育、教員のスキルアップ、ICT の活用促進のための環境作りなどを柱としてそれらを取り巻く問題点を共有して、改善のための取り組みを行う。

② 教育資料研究会（21世紀を生き抜くための新たな資質能力と学び）

【コーディネータ】 久世均（岐阜女子大学）、斎藤陽子（岐阜女子大学）

【概要】

次期学習指導要領の改訂の視点は、子供たちが「何を知っているか」だけではなく、「何ができるようになるか」ということであり、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関わるものの全てを、いかに総合的に育てていくかということである。また、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、子供たちが「どのように学ぶか」についても光を当てる必要があるとの認識の下、「アクティブラーニング」が注目されている。ここでは、21世紀にふさわしい学びのもと「新たな学び」に関する検討を進めたい。

③ 教職開発研究会（アクティブラーニング・IR）

【コーディネータ】 武田正則（国立仙台高等専門学校）、森雅生（東京工業大学）、高田英一（九州大学）

【概要】

現在、知識基盤社会の到来、グローバル化等の教育を取り巻く急激な環境変化の中で、教職員にも新しい知識技能を身に付けることが求められており、それに伴い、教職開発（FD/SD）における多様な分野における進展と深化に期待が高まっている。

本研究会では、教職開発（FD/SD）に関する現代的な課題である IR、アクティブラーニング等に関する課題研究のセッションを開催し、課題と解決策を協議する。この際は、本年開催の IR、アクティブラーニングに関する教職開発研究会の研究成果を踏まえて、議論の深化を図りたい。

④ デジタルアーカイブ研究会

【コーディネータ】 井上透（岐阜女子大学）他

【概要】

地域での急速な人口減少に対応した地域創生が政府の重要施策になっている。地域の活力を生み出すには、地域に残された文化遺産・資料の公開による教育面でのアイデンティティ涵養、観光など経済活動での活用が求められている。地域文化資料の活用のためには、高度情報化社会に対応したデジタルアーカイブ化が必要であり、さらに、社会での共有財産・オープンデータとして提供することが望ましい。

デジタルアーカイブ研究会は昨年11月21日、本年2月10日に研究会を開催して研究を進めてきた。今回の課題研究では、教育や図書館、博物館、自治体、企業などで実践されているデジタルアーカイブの多様な展開に応じた、基礎理論や各分野での実践・活用、教育方法を対象としてさらに研究を深化させ、デジタルアーカイブを基礎とした知識基盤社会の充実を図りたい。

⑤ 国際交流研究会（教育および研究のグローバル化の現状と課題を再考する）

【コーディネータ】国際交流研究会会長 小川 勤（山口大学）他

【概要】

高等教育のグローバル化の進行は、予想以上に進行している。海外からの交換留学生の増加は急速に増加している。また、大学は各教員に対して、英語による授業の実施や国際的な研究能力を求めてきている。

一方で、留学生が慣れない海外生活による学生のストレス問題や大学教員の英会話能力の向上などさまざまな課題が新たに発生してきている。そこで本課題研究では、教育と研究のグローバル化に伴う現状の課題を分析するとともに、海外との教育・研究交流をさらに推進していく上での課題や今後の学術交流の在り方について本学会の研究者だけでなく、海外の研究者や留学生のコーディネータを担当している方々も交えて研究・協議する。

⑥ 特別支援教育 AT 研究会

【コーディネータ】金森克浩（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所），
大杉成喜（熊本大学教育学部）

【概要】

平成 28 年 4 月より「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行が始まる。

障害者を包容する教育制度（インクルーシブ教育システム；inclusive education system）実施にあたっては、「障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備」に重点が置かれる。学校教育において合理的配慮を浸透していく上でアシスティブ・テクノロジー（技術的支援方策）機器の役割は重要である。本分科会では「合理的配慮とアシスティブ・テクノロジー」をテーマに、各学校現場・研究機関で施行されている先進的な取り組みについて情報交換し、普及につなげたい。

⑦ 著作権等研究会（著作権・肖像権・個人情報・慣習を示す表示方法）

【コーディネータ】坂井知志（常磐大学）

【概要】

各研究会に横断的な課題について、今年度は著作物の権利処理の問題とします。このことについての案を著作権等の研究会から各研究会に提案をします。それに基づいてフリーディスカッションを行います。また、各研究会においても著作権等の権利の問題について不安なことがあれば、そのことも検討していきたいと考えています。当日で結構ですので、質問を各研究会で整理しておいてください。

【4】 研究発表申込募集

① 研究発表申込み資格

第 1 発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）が必要となります。非会員の方は、学会運営本部事務局（jsei@gifu-u.ac.jp）に申込み、入会登録手続きを行ってください。

★ 会員番号をお忘れの方へ ★

郵送物の宛名ラベルに印字してある 4 ケタの数字が会員番号となります。ご参照ください。

※研究発表の申し込みや発表原稿の提出には、会員番号が必要となります。

② 発表内容について

「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」とは、「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の内容となります。想定される発表セッションのキーワードは下記の通りです。応募状況に応じてセッションを設定する予定です。

キーワード

教育情報管理、文献資料、教材、電子教科書、デジタル・コンテンツ、教材開発、メタデータ、情報カテゴリー、シソーラス、デジタル・アーカイブ、知的財産権、プライバシー、カリキュラム、教材研究、学習評価、授業分析、教育システム、共同学習（遠隔協働学習）、交流学习、高大連携、生涯学習、教師教育、情報教育、教科教育、情報処理教育、eラーニング、教育情報システム、学習ソフトウェア開発、学習情報管理システム、データベース、情報検索、インターネット、遠隔教育、遠隔教育システム、ネットワーク、プレゼンテーション、電子黒板、マルチメディア、国際貢献・協力、国際理解、特別支援教育、高等教育、専門教育、技術教育、初等中等教育、情報モラル、メディアリテラシー、アクティブラーニング、反転学習

③ 発表申込み方法について

昨年度に引き続き発表申込みを、年会ホームページ上の＜申込みフォーム＞からお願ひします。

年会ホームページ以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんのでご注意ください。

なお、申込み後の申込内容変更については、メール＜jsei-nenkai@jsei.jp>にご連絡をお願いします。

＜1＞ 発表申込み方法

WEB 上の発表申込みフォームからお申込みください。

第 32 回年会ホームページ（<http://jsei.jp/nenkai/nenkai32/>）の [発表申込み] のページにある [発表申込みフォーム] から、必要事項をご入力いただき、お申込みください。

＜2＞ 発表申込み期間

3 月 1 日(火)～5 月 13 日(金)

＜3＞ 申込み完了メール

WEB 上の [申込みフォーム] からお申込みをいただき、登録が完了すると、お申込み時に入力された E メールアドレスへ『申込み完了メール』が送信されます。

※申込み完了後は必ず『申込み完了メール』が届いていることをご確認ください。

《4》 発表可否通知期間

5月27日(日)頃(発表のお申込みをいただいた方には、発表の可否をメールで連絡します。)

《5》 年会論文集原稿提出

発表を可とされた方には、論文の執筆要項をお送りします。原稿は「年会論文集」の版下の形で、年会ホームページ内の「原稿提出フォーム」からデジタル原稿(PDFファイル)で年会事務局に提出していただきます。

《6》 原稿提出締切日

7月15日(金)

《7》 課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は前記「課題研究テーマ」から選びそのテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
- ・課題研究として発表できない場合には、一般研究を別に申し込んでいても課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
- ・第1発表者(講演者)として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

《8》 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者(講演者)としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・試みに、21日(日)に会員の方が開発されたソフトウェア(無償のもの)のデモを考えています。用意できるものは机とモニタのみですが、ご希望があれば、以下までお問合せ下さい。
実行委員長 福井正康 宛 fukui@heisei-u.ac.jp

《9》 発表申込フォームの書き方について

- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく詳細に書いてください。
- ・キーワードとして前記一般研究発表のキーワードの中から2~5語以内を選んでください。
会場で使用できる機器は、プロジェクタです。パソコンは各自で持参してください。また、あらかじめ持参する機器等がある場合は、申し込み時の大会事務局への連絡欄にその旨を記入してください。
- ・執筆要項などの送付先(メールアドレス等)は、発表者への連絡時期である6月を想定して、自宅または勤務先を記入してください。

《10》 発表者への連絡について

- ・発表を可とされた申込者に対しては、論文の執筆要項をお送りします。
- ・論文の原稿枚数は、一般研究は2枚、課題研究は4枚とします。
- ・原稿は「年会論文集」の版下の形で、原稿提出フォーム(デジタル原稿(PDFファイル))より年会事務局に提出していただきます。

★発表申込書の記入の注意事項

- ①発表者とは
研究発表会場で口頭発表する会員です。
- ②発表件数について
一般研究発表者として1人につき1件、課題研究発表者として1人につき1件とします。(最大2件の発表ができます。)
- ③キーワードについて
前記の<キーワード>の中から2~5語以内を選んでください。

【5】参加について

- ①参加申込について
次号ニューズレターで、申込み方法等詳細についてご案内いたします。
- ②参加料について
参加費、年会論文集代、懇親会費(参加自由)は下記のとおりです。
なお、支払方法につきましては、次号ニューズレターでご案内いたします。

- 参加費
 - ・会員<事前申込> 参加費 3,000円
 - ・会員<当日> 参加費 4,000円
 - ・非会員 参加費 4,000円 (後援関係者無料)
- 年会論文集代 3,500円
- 懇親会費 5,000円

【6】年会開催までのスケジュール

- 発表申込締切 2016年5月13日(金)
- 発表決定通知 2016年5月27日(金)頃
- 論文提出締切 2016年7月15日(金)
- 参加申込締切 2016年8月10日(水)

発表申込み手順

web 申込みフォームから

申込期間：3月1日～5月13日



申込み完了メール受信



発表可否通知

通知日：5月27日頃



年会論文集原稿提出

提出期限：7月15日

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学総合情報メディアセンターC 館内

TEL: 080-9730-1311

FAX: 058-293-3384

E-mail: jsei@gifu-u.ac.jp

HP: <http://jsei.jp/>